

子供の頃、どぶ川は雨が降ると氾らんして
素晴らしく溢れた、
とOという

最初のMのひとりごとのような言葉とともに、
灰色の薄い箱が届いたのは思いもよらないことだった
パンパンに膨れて、いっぱい、少しまるみをおびる

削れた角が桃色の排水溝も、青く膨れて、切り取られて、

最初のMは 小さな川に掛かる小さな橋のこっちから、船に見立てた葉っぱをながしてあっちに抜けるそれを飽きずに
待った。

こっちからあっちにいくとあちはこっちになって

もう少し遠くのもう少し大きな川は 上はゆっくりで、下ははやくて 夏休みごとに子供が沈んだ
そういうふういきいた

――

白い点
花の名前を
TもS知らないという

細い水がめぐる 引っ搔いて削って
ここの水は止まっているとSという
動いているように見えるのは風が吹くからだ

細い道 柵もなく、落ちないように
そこが出口だと言われた場所に行く
急な坂を上がると大きな鳥がいて しばらく回って飛んで遠くに行く
向こうは海
黒い泥の上にあるのは鳥かしら石かしら穴かしら

そこにあるけどそこには行けなくて

あっちもこっちもそっちも水があるから、どっちに向かって走っているのか

道と水の境目がないから
溢れると平に水になるんですよとIが言う
昔は海の底だったんです

そこを歩く
では、頭上に水
亀の鼻はその上で息を吸い息を吐き

あっちもこっちもどっちも溢れてまざる
カブトエビの卵も溢れて流れていなくなる

Wの家にくらし、Wの窓から外をみる
下が細い黄色い大きなカップはティーポットがわり

机の上に派手にこぼしてみんな濡れて文字も滲んでしわしわで

Oが生まれた家は門だけが残リ
どっちに行けば入れるのか出れるのかそもそも門はしまっているし
大きな楠木が2本

最初のOと2番目のOはべつのO
どちらのOも遠くにいる

その門はレプリカですよと2番目のTがいう

Sは水の前の椅子に座っていた
SがSだと知ったのは2回目に出会った時

最初のSと2番目のSは別のS

向こうからくる水は重いから、ずっと待っていたら下に溜まるとYがいう

そっちにも門があると言ったのもY
最初のYと2番目のYは違うY
2番目のYの庭には大きな魚が上がってくる

暗い道 暗い廊下 家鳴り
背中で聞く音は雨の音ではなかった

はっきり見えると怖いとAはいう
この石はAが拾っていた石
いやその石はもうここにはないけど

ただたくさん拾ってくるのが好きだった

川から川まで石の塀、細い道、片側に落ちないように

5.6人の少年が丸い石を道に落として割っている
割れた石が水の上を何度もはねる

今日の水はこの高さ

大きな石を投げると割れて散らばって
水に落ちて
たくさん音がずれて鳴る

Aは4番目のA
1番目とも2番目とも3番目とも違うA

ここにはもっと大きな楠木
階段に黒い実

今日はたくさん雨が降って
道の近くに水はある

まっすぐ縦に虹が光る、よそ見をしたらずくに消えた

..

この水は縦に動くと、ずっと話し続ける女性が言う

暗い道
右側の水は黒くて夜の黒と混ざって

では、夜と水は頭上に

古着屋で買った青い上着を小さなバケツにいれて水を流す
青は少しくすくなった